

ハードコアオープン⑦サーキットを振り返って

月	優勝	準優勝
1	佐藤志郎	石飛文太郎
2	田中武二	高倉和夫
3	佐藤志郎	高倉和夫
4	石飛文太郎	田中武二
5	石飛文太郎	田中武二
6	石飛文太郎	高木義晴
7	高倉和夫	松尾周一郎
8	高倉和夫	高木義晴
9	松尾周一郎	田中武二
10	福島勝成	高木義晴
11	湊高志	田中武二
12	田中武二	高倉和夫

(敬称略)

総合優勝	田中武二さん	48P
2位	石飛文太郎さん	47P
3位	高倉和夫	46P
4位	松尾周一郎さん	28P
5位	佐藤志郎さん	26P

【年間を振り返って】

今年のハードコアは前半戦での2年連続王者田中さんの不調と石飛さんと佐藤さんの大活躍、後半戦のニューヒーロー続出と田中さんの大逆転勝利ということが言えましょうか。3強の成熟と全体レベルの底上げということは年間を通して感じたことであります。

とにかく、前半戦の石飛さんの3ヶ月連続制覇は凄かったです。佐藤さんも出場機会が少なかったですが、そのかわりアーニングインデックス第1位の数値が示すとおり、3の2ですから、その優勝率は凄まじいものがありました。

夏になるとこの2強の出場が少なくなったこともあるんですが、私、高倉が体力にモノを言わせて2ヶ月連続Vを果たしました。今思えば、皆さん暑くて集中力が持続しない中、ミス誘導型＆ハイリスクネットプレーが功を奏したということでしょうね。

夏が終わると、プレコンフェデ＆県職員大会と言った一連のダブルス大会を制した松尾さんが、まさに絶好調で、勢いそのままに9月大会を田中さんナイター撃破で優勝。この頃の松尾さんについては、多分敵というか要注意事項は自分のガソリンタンク(リッター5くらい)のみだったんじゃないかなと思います。そのくらい馬肥ゆる秋って感じで、菊花賞辺りに出走しても良い線行ったんではないかくらいの超絶好調ぶりでしたね。ちなみに僕ならアサクサキングスより松尾さんに重い印を打ったと思います(笑)。

秋シーズンについては、毎月ハードコアニューチャンピオンが生まれるという、今までハードコア史上でもなかなか見られない状態でした。前出の松尾さんに加え、10月福島さん、11月湊くん。どちらも「鬼の居ぬ間に」状態ではなく、ちゃんとハードコア上位陣を下しての天晴れな勝利。特に10月の福島さんについては、TPO を押された心苦しい戦術で、誰も寄せ付けない圧倒的な勝利。湊くんは、がっぷりよつで打ち合っての渾身の勝利。どちらも素晴らしいですねえ。ハードコアに新しい流れが押し寄せていることをよく感じさせてくれるものでした。

そして、ラストマンスとなった12月は、今までになく出足が悪かった田中さんの、これまで鬱憤を晴らすかのようなスカッとした大勝利。そして、奇跡の大逆転劇で3年連続チャンピオンを手中に收められました。最後はやっぱり田中さんなんですねえ。ハードコアはやっぱ田中さんが強くないと何かしくり来ませんから、とても良い結果だったと思います。

【主催者からのエール】

ここからは、今年3回以上ハードコアに参加していただいた皆さんに主催者の高倉から感謝の意を込めて、一人一人エールという名の、今時点でのその人の印象や感想を述べてみたいと思います。但し、エールといいつつ気を悪くするような表現があるかもしれません。年の瀬も迫ってきましたので、年忘れということで、広いお心で一笑にふしていただければ幸いです。

(目次)

出場回数3回組

藤江 武弘さん
小林 努さん
徳永 隆之さん
佐藤 志郎さん
福島 勝成さん

出場回数3回組

藤江 武弘 さん

コメント:何回か対戦させて貰いましたが、ストロークのボールはフラット系で球速は速く、フォームが独特なので、打って来るコースも事前に分かりづらいという長所が

出場回数4回組

岡 健司さん
浦瀬 博良さん
赤木 竜弥 さん
高木 清 さん

出場回数5回組

出場回数6回

石飛文太郎さん
福代 洋平さん

出場回数7回

松尾周一郎さん

出場回数8回

田中武二さん
建部勇治さん

出場回数9回

高木義晴さん
角 広幸さん

出場回数10回

立石誠治さん

出場回数11回

植田晃広さん

あると思います。今後、一発ノータッチエースを狙う方針で行かれるのか、アンフォースドエラーを少なくしていく方針かに寄りますが、ゲームの中で、その方針を入れ替え、プラス、ネットプレーを取り入れられると対戦する方としては嫌ですね。基本的にダブルスもされているようなので、印象としてネットプレーでポイントを取られることが多かったなという感想でした。未完の大器、是非08シーズンは完成させて下さい！！

小林 努 さん

コメント：端から見ているとかなりフォームが綺麗に見えます。プレーの一つ一つが様になっているって表現がピッタリではないかと。バックハンドのストロークとか、綺麗な流線を描いてますよね。これって凄く重要なことで、多分基本に忠実なのでしょう。後は試合用にプレーをまとめていくってだけで、かなり結果が付いてくるプレーヤーなのかなと見ています。後半は積極的にハードコアに参加していただきましたし、これからもっと実戦を多くこなしていかれれば、ハードコア昇り龍賞でしょうね。08シーズンを大いに期待していますよ！！

徳永 隆之 さん

コメント：粘り強いプレーに定評がある徳さん。一緒に練習させて貰う機会もあるので、余計良くわかるのですが、最近の徳さんはストロークの打ち合いの中から、ただ、相手のミスを待つばかりではなく、コース変えて仕掛けていったり、時にノータッチエースも取れるようになってきました。これについては、僕は今とてもその理由がわかります。つまり、徳さんや僕のような守備型でいかにアンフォースドエラーをしないかに命掛けてるようなプレーヤーというのは、大いに使っているラケットによって、出来ることに制約を受けるといいましょうか、もっというと使っているラケットでプレースタイルの幅が決まってしまうわけですね。で、多分、今まで使用していたリキッドメタルプレステージMPでは、ミスるイメージが強いため出来るのに余りトライする気にならなかったプレーが、今のXブレードやピュアドラではトライする気になってしまふ。ということだと思うんですよ。そして僕が見ているところでは、徳さんには320gよりもう少し軽い300から290くらいの重さで、しかも球威のあるボールにでも弾かれない程度のラケットがピッタリかなと思うのです。簡単に言って、軽くなつてフィジカルの負担が軽くなった分を攻撃することに向けられるってことだと思うんですね。ですから、僕は徳さんにはピュアドラとかV-CONとか、プリンスの03XFホワイトとかがとても徳さんに翼を与えてくれるんじゃないかなって思うのです。

ストロークの中で展開が出来るようになると、ポイントが計算出来るようになり、1ゲームを見通しを立てつつペース配分して組み立てていくことが出来

るようになります。その上で、ポイントを取るバリエーションとしてネットを制することが出来るようになってきたら、はい！一丁ハードコア上位者の出来上がりです。何か、ここまで書くと、まるで徳さん本人のスキルより、ラケットのスキルにオップに抱っこして貢ってるみたいな言い回しになってきましたが、いえいえそんな事はございません。ラケットに導かれて気が付けば徳さんのテニス力もいつの間にか雲泥の差で向上していくのです。

08シーズン、実は後で出てくる方と共に最も期待しています。田中先輩の背中が見てくるところまで、是非行って欲しいと思う次第です。

佐藤 志郎 さん

コメント: 07シーズン、3回の出場で2回優勝、公式戦では、益田OPの対宗近さんタイブレイク、出雲OP対梅健さん5-8と県上位の方とも大接戦を演じられるようになり、既にハードコアを超越してきているとさえ言える実力を付けられました。ハードコアに出場されなくなったのは寂しい限りですが、ハードコア戦士達はいつも公式戦での佐藤さんの活躍を喜び、励みにし、モチベーションを高めていること思います。結婚され、肝の据わったお人柄に輪をかけて情緒安定が奥さんの手によって施され、08シーズンは更なる高みを目指していく環境が整ったんじゃないかなと思います。ダブルスの方でも松尾さんとのコンビが板に付き、所属するみみよりチームでは団体戦での完全なポイントゲッターとなられた感があります。

シングルス、ダブルス両睨みで、県ランク上位を狙って下さい。

福島 勝成 さん

コメント: 10月大会覇者です。雨で球足が速くなったサーフェスを完全に読み切って、決勝では田中に圧勝した高木義晴さんにこれまた圧勝されました。とにかく、ハードコアイチのテクニシャン、ハードコアのサントーロと言えましょう。福島さんにネットを取られたら、好いようにあしらわれます。田中のストロークと福島さんのネットプレーが合わされば、鬼に金棒ですよね。といって、10月大会はネットプレーで勝たれたわけではなく、スライスです。数えたことはないですが、ホライゾン系(地平線を這うような弾道)と、ムーン系(山なり)、ちょっと零式系(弾みが極端に少ない)、それに数種のコースが合わさって、もう自由自在、縦横無尽に操られます。ハードコア戦士の皆さん、福島さんの試合はシケ单(デル单)並みに、受験生のバイブルっすよ！！って、あっとととSHOUEIKAN！？

一出場回数4回組一

岡 健司 さん

コメント: 8月に新潟からの電撃復帰を決められた岡さん。相変わらず、足も速く、ストローク両サイドの打ち分けもバッカリで、おまけに僕からするととっても羨ましい滑って敵が絶対取れないボレーも出来るという、惚れ惚れするプレーは健在でした。そして、11月大会は念願(！？)のハードコア初ポイントゲット！！持ってる実力からすると結果が全然追いついてこない人筆頭みたいなところを徐々に払拭されてきているのではないでしょうか？

逆に、奥さんとのペアの岡岡ダブルスはミックス大会ではかなりの好成績を残されています。僕が今シーズン見た中で、やっぱ、岡さんポテンシャル高いわって感じた一戦は、松江オープンでの開星の竹内くんとの打ち合いでした。結果はワンサイドに見える負けでしたが、中身は結構いい打ち合いをされていたんですよ。岡さんが、後もう数ラリーでも繋げられれば、スコアの開きは全然違うものになっていたと確信しております。竹内くんのような超ストローカーと打ち合いが出来るんですから、岡さん、08シーズンはもうちょっと「勝ちたい」気持ちを前面に出して、ナイスプレーをした時などは、一丁「カモン！」とか「ヨシ！！」とか大きな声出して自分を激励するのとともに、相手に自分の気迫をぶつけながらプレーしたら絶対好成績納められますよ！08シーズンは意識改革で必ず更なる飛躍が約束されることでしょう！！

浦瀧 博良 さん

コメント: 今シーズンはハードコアの日とおこちゃまの行事や家族イベントとがことごとく重なってしまった浦瀧さん。ハードコアに参加されるのを楽しみにしているので、いつも申し訳ない気分で一杯です。

今年の浦瀧さんで一番印象に残っているのは、ハードコアのダブルス版、夏に行ったプレコンフェデレーションズカップでの、立石さんとの超摩天楼ペア、そして不測の事態による超電撃解散でしょうか。ホントにあの日、キララビーチで無許可営業をしていた業者といくらかけても電話に出ない上司さん、この2者は大ヒンシュクものですよ。立石さんに悪いと思いつつ、どうしても職場に戻らなければならず、帰っていく浦瀧さんの後姿は…相変わらずデカイ…じゃなく、とってもやるせい思いで一杯のようでしたねえ。

08シーズンもなかなか毎月続けて参加ってことは難しいかもしれません、ハードコアの誰よりもプレーに華があり、見ている人を惹き付ける何かを持っておられる浦瀧さんが参加されるとそれだけで大会全体の笑い声が何割り増しにもなるので、出来るだけのご参加とダイナミックなプレーよろしくお願ひします。

-出場回数5回組-

赤木 竜弥 さん

コメント: お仕事と組合活動があちこちで忙しく、なかなかハードコアにご参加いただけない赤木さんですが、今年は秋口にニューラケ「C - S N I P E」を購入され、オールラウンダーぶりにますます磨きをかけていかれるキッカケが出来たのではないですか。プレー的なことを言えば、赤木さんのスキルやテクニックや身のこなしいうのはダブルスでこそ本当に真価を発揮するなって思っています。実際、ハードコア空き時間に行うダブルスでも前衛での抜け目ないプレーやポーチに出るスピードの速さには舌を巻かされることが多いです。赤木さんがどちら(単か複か)に重きをおいてこれから活動されるのかわかりませんが、シングルスやるにしてもネットでの素早い身のこなしも十分発揮されるような戦術を取られると、僕としてはかなり嫌だなあって思えます。

それと、赤木さんについていつも凄く感心していて、特筆すべきだと思っていることは、自分の試合がなくても私服で気軽に浜山や真幸が丘にフラッと現れて、時間の許す範囲で県上位陣の試合を観戦されて帰られるということです。僕も人の試合を自分なりに分析しながら観戦するのが大好きですが、上手い人のプレーを見ること、試合の流れや駆け引きを自分の試合に置き換えてみることってすごく大事だと思っていて、これはなぜかといえば、今現在、自分が出来ないと、出来るんだけど、物凄く筋力や体力や身のこなし方的にユーズナブルじゃないプレー、試合のプランによってプレーを組み立てていくこと、窮地に立たされた時の心の持ち様とか、とにかく、その時自分が抱えている不安材料について、自分でプレーしていくにはなかなか気付けないヒントがちりばめられているんですね、ウマい人の試合って。ですから、赤木さんが自然とやっている、他人のフリ見てわが身を正そうとする行為ってのはいつか必ず赤木さんをぐっと押し上げてくれると思いますよ。では、08シーズン、C - S N I P Eで大暴れしてください！！

高木 清 さん

コメント: 進化する40代、ガット絶対切れない神話、フランメンコ締め、サーパス購入、そして5人リンクだと必ず一勝一敗で順位付けを混沌とさせ、深淵な順位付けのルールまで作らせた恐るべき男、と常に面白い話題を提供していただく、ムードメーカー高木清さんです。

高木さんって結構好不調の波を持っておられるみたいで、5月大会のベスト8で当

たった時の高木さんは強かったなあ。7 - 4から捲られて、何とか9 - 7で逃げ切ったんですけど、フォアがありえん位のコースに入って、もう手が付けられないとになっていました。残念ながらあの大会のあのゲームのパフォーマンスをなかなかいつでも発揮するってことが難しいようですが。

僕は高木さんってストロークもいいし、実はボレーのタッチが凄くいいっていつも声を大にして叫んでいるのですが、余りネットに出られませんよね。ストロークでいつもノータッチやエースを取るのは難しいことなので、ほんの少し打ち込みの威力を下げてコントロール重視のスピンドオープンコートに深めに打って、ネットに付かれるプレーを軸に試合組み立てていかれた方が対戦する側は絶対恐いんですけどね。

ストローク戦でアンフォースドエラーが多いと、相手としては、後ろで打ち合ってくれていれば、高木さんの方からそのうちミスってくれるだろう、なんてリラックスした気持ちでやってしまえるんじゃないかなと思うので、今後は、持ち前の地肩の強さを生かした高速サーブに加え、ストロークでのアンフォースドエラーをいかに減らすか(エースを狙いに行く、難しいショットを打つ回数を抑える)ということと、ボレーを生かす戦術での組み立てをご一考くだされば、ハードコア上位トーナメント常連は間違いないと思われます。そして、是非チャンピオンになられて、チャンピオン自ら、最後の締めをお願いしたいと思います。

出場回数6回組

石飛 文太郎さん

コメント: 上半期の4月から6月までに3連覇を達成されるという大金字塔を打ち立てされました。あの調子で8月以降も参加されていたら、多分年間チャンピオンは間違ひなかっただと思います。

とにかく今年の石飛さんは飛躍の年だったんではないでしょうか。過去のハードコア優勝者、準優勝者がほとんど顔を揃えた最強者決定戦的5月大会を制され、9月には安来の一般大会A級も制覇されました。勢いに乗って、出雲オープンでは初戦のデネブ小草さんと7 - 9の大接戦、そして県知事杯団体戦での飛び級ジュニア的野倫平くんとのタイプレの死闘。的野くんは島根県選手権で優勝し、全日本選手権の島根県代表になっていますし、松江オープンも制しているので、もし仮に知事杯の時のコンディションが絶好調ではなかったとしても、彼と8ゲームマッチでタイプレまで行くっていうのは、普通の勤め人ではあり得ないことだと思いますし、大讃辞に値するのではないかでしょうか。

石飛さんには、ハードコア創設時に描いた「ハードコア戦士達による切磋琢磨の螺旋から、いつの日か県大会や一般大会A級優勝者を輩出する」という理念を見事に体現していただきました。安来で優勝された時は僕も最後まで観戦し

ていたのですが、優勝が決まった時には本当に感動しましたね。

石飛さんには、そのテニス技術はもちろんなんですが、元々備わっている素養としての、パワー、持久力、何事にも動じず折れない心がとてつもないと思っています。来期は県大会のどれかを是非制して貰いたいと思います。

また、残念ながら、石飛さんも佐藤さんと同じくハードコアを超越してしまった感があるのですが、僕は石飛さんや佐藤さんにまた参戦して貰えるような、「出たくなる」ハードコアを作っていくよ。

福代 洋平さん

コメント: ハードコアでも有数の守備力と呆れるほどコントロールされたトップスピノロブを持つ、福代さん。その守備力を支えるのは脚力です。対戦していて、こちらがネットを取った時、ボレーで一回二回左右に振っても、届かないだろうってボールに触られます。それプラス、少し余裕があればあり得んロブで反撃される始末。ホントに要注意人物です。

特に8月大会。この大会で僕は最終的には優勝したのですが、戦った全4試合の内、一番苦しかったのが福代さんとの試合でした。とにかく、あの嫌になるほど日差しのきつい中、立ってるだけでも体力がなくなって行く中、僕のストロークでは福代さんの守備網を破れるわけがなく、当然、勝負の焦点は僕がどれだけ福代さんを走らせるようなアプローチショットを打って、ネットプレーに持ち込めるか、逆に言えば、福代さんは、ベースラインからのストロークを出来るだけ深く、又はコースに集め、高倉からのアプローチショットを甘くして、パスとロブで料理するかだったのですが、実際にはホントに甘いボールが少ないので、アプローチショットに持っていくまでに、何回も打ち合いをし、その後ネットに出ても、一発二発三発とボレーを打たされ、それでポイントを取れる時はいいのですが、ミスってポイントを逆に奪われた時には、日差しのきつさも合わさり、もう立ち直れないくらい意気消沈したものです。それでも何とかこの試合僕が勝てたのは、僕には自分がこのパターンに持ち込めば、たとえ労を要してもポイントが取れるという道標があって、厳しい状況の中でも僅かな光明を頼りに出来たということじゃないかなと思っているのです。逆に福代さんにはなんなくですが、高倉のプレーの精度次第っていう受け身の気持ちがあったのでは。8 - 6の差はここにあったかなと僕自身は分析しています。

福代さんについては、今の守備力を生かしつつ、どうやったら相手がミスるかという能動的ミス待ちテニスを構築していくって貰いたいですし、スピンの量を調節してムーンボール気味に深く打って、そこで出来る時間を作り生かして是非ネットでポイントを取っていくという自分の確固たるパターンも築いていく

貰いたいですね。そうすれば、高倉には負けなくなりますよ。

とにかく、福代さんは08シーズン、どっかの月でチャンピオンになれる素養を十分持っておられると思うので、大暴れしてください！！

一出場回数7回組一

松尾 周一郎 さん

コメント: 松尾さんについては、結構、冒頭で記載したので、それ以外に余り述べることはないのですが、多分、ハードコアの中でもネットプレーでのポイント取得率は1.2位を争うんではないかと思われます。福島さんの項でもネットプレーの巧さを絶賛させて貰ったんですが、松尾さんの場合はボレーやスマッシュに巧さプラス球威があるように思えて、しかも、身体がデカいので、前に出られるとパッシングのコースを見つけるのに普通の人の倍は苦労しますので、ホントに前に出られると、諦め感すら漂わせられる恐るべきプレイヤーですね。

そのことは本人も十分自覚されていると思うのですが、体力的にパフォーマンスのレベルが維持できないという深刻(！？)な問題を抱えておられます。いかんせんこのガソリンの問題、これについては冬場しっかり走り込んでおいていただければと思います。

一出場回数8回組一

田中 武二 さん

コメント: 田中さんについては、ハードコア創設以来の3連覇おめでとうございます。ということだけでしょうか。シーズン中盤は決勝で敗れることも多く、一時期の出来になかったのかもしれません。その原因は多分ラケットを変えられて色々前と勝手が違ってしまったということに主因するのではないか。昨年から今年の初めくらいまで使っておられたヨネックスのナノスピードRQ7から、色々試されました。以前に使っておられたプロスタッフ、新フェデラーモデルK-SIX ONE tour90、プロビームX BLADE、僕も今年は大いに色々なラケットを試打し、実際にハードコアでも使用してみたのでよくわかるのですが、ラケットそれぞれに使い込んでいくことによる経験値みたいなものがあって、その経験値が浅いほどラケットが使いこなせなかったり、思わぬところで、悪い意味での意外な発見をしてしまったり。とにかく、今日ある自分のレベル、といいましょうか、ランキング、成績、強さ、もっと言えば出来るプレー、打てる球威というものは結構な割合で今使っているラケットのお陰だったりするんだなって気付かされたんですよね。これは良い意味でも悪い意味でも、逆にもっと自分のポテンシャルを發揮させてくれたり、少しだけ

自分の苦手なプレーについて背中を押してくれたり、協力してくれるラケットに出会えれば、今対戦成績5分5分の人なら、多分8 - 2の割合で勝てるようになるもんだなって感想を持っているんですよ。

長々と前置きを書きましたが、多分田中さんはこういう気持ちで、ナノスピードと自分ではなしえない更なる高みを目指して、ラケット遍歴の旅に出られ、そして、シーズン終盤まで悪戦苦闘されながら、段々とラケットとの経験値を積まれていかれたのではないかと思います。

その集大成とも言えるプレーをシーズン最終戦の12月大会で披露していただきました。その12月大会の田中さんは、とにかくストロークの打ち込みが凄まじかった。前述したように僕も11月後半に出会えたラケットにとって、今までではなしえなかった領域が見えてきて、パフォーマンスのレベルは、過去最高だったと思います。それは以前のレベルで戦えば負けていただろう人にも少し余裕を持ちつつ勝つことすら出来たことでそう確信したのですが、この日の田中さんには全く歯が立ちませんでした。一発目の打ち込みで返球が少し短くなり、次の一発で見事にコーナー角にノータッチを取られる、そんな場面の連続でした。ご自身も感じいらっしゃると思いますが、今の状態なら県上位陣とのストローク戦でも十分打ち合っていけるんじゃないかなと思います。

以前のレベルに戻ったんではなく、以前より更にパフォーマンスを上げられた田中さん。田中さんが強くないとハードコアはつまらない。08シーズンはまたとても楽しみになってきました。

最後に一つ苦言を言わせて貰えば、流れの中でネットに出た方がいい時って必ずあると思いますし、相手にネットもあるんだと思わせて牽制しといた方が絶対的にいいと思いますので、たまにはネットプレーお願ひします。

建部 勇治 さん

コメント: こちらも一連の起業騒ぎから段々と落ち着かれて、肘の痛みも薄れられて
本来の実力を取り戻しつつある建部さんです。ただし、ハードコアの日に夜勤明けで結局欠席されることもあり、気の毒なことが多いですね。特に10月大の直前は僕は全く歯が立ちませんでしたし、すこぶるコンディションの良さを感じていて、密かに優勝候補に挙げておりましたので本当に気の毒でした。
しかも、最近になって故障者リストに入られたということで、心配しておりましたが、幸いにも年が明ければ復活されるらしく、そんなに重傷ではなくて良かったと思います。建部さんが調子がいいとサーブで浮かされて、それをスマッシュで叩かれたり、ストロークでノータッチを決められたり、もう手が

付けられなくなるので、08シーズンは是非あの調子にまで戻して貰って、
ハードコア制覇して貰いたいですね。建部さん！コートで待ってますよ！！

一出場回数9回組一

高木 義晴 さん

コメント: 07シーズンも悲願のハードコア制覇が叶わなかった義晴さん。

失意のシルバーコレクターの称号を欲しいままにされていますが、逆に
いうと、08シーズンにおいて、もっともニューチャンピオンの可能性が高いのも義晴さんであり、誰もそのことに異を唱える者はいないでしょう。

とにかく、義晴さんの安定したプレーには若手プレーヤーは見習う点が多く、体力は底なしですし、ストローク両サイド良し、バックからのスライスは大きな武器ですし、サーブもスピン系でダブルフォルトが少なく、ネットについてもボレースマッシュとも安定されていて、よくよく分析してみればハードコアにおいてこれほどまでに色んなショットを苦なくこなされ、弱点が少ないプレーヤーは義晴さんのみではないかと思います。誰か若手が言っていましたが、義晴さんくらいオールラウンダーという言葉がよく当てはまる人はいないって言葉は本当に頷けます。

後は、僕が思いますのは、「球威」でしょうかね。ストロークとサーブの球威を全体的に2割アップされれば、凄いことになると思うのですが。

08シーズンは早期のチャンピオン奪取。そして年間チャンピオンまで
視野に入れて取り組んでください！！

角 広幸 さん

コメント: 着実にレベルアップを果たしてこられた角さん。なんか最後の方は上位T
常連さんとなられておりました。徳さんの項で書いた「後で出てくる今後もっ
とも期待するプレーヤー」こそ角さんです。

サーブの球威やスピード、それとサウスポー特有の右へのカーブ、
こんな球打てるのは角さんしかおりません。そして、サーブを打った後の「次」
のプレーこそ角さんの最大の課題だと言ってきましたが、最近はサーブ＆
ボレーでポイント取られたり、ストロークで打ち込んだり、まだ確実性こそ
少ないので、相手にプレーさせない内にポイントを取ってしまえるプレー
の片鱗が続々お目見えしています。

このサーブからの一連の流れが確実性を上げてくると、もうホントに誰も
太刀打ち出来なくなりますよ！！

角さん、08シーズン、絶対突き抜けちゃってください！！

-出場回数10回組-

立石 誠治 さん

コメント: 夏頃、FPプレステージMID330gを購入され、そのストロークの破壊力ときたら、とんでもないことになっている立石さん。でも悲しいかな、郵政民営化の煽りを受けて、忙しくてテニスラケットが全然握れないようです。たまに練習に参加して貰うと、感覚の違いで、スピンドルをかけるつもりが、下からドフラットに打ってしまい、大ホームランを連発されます。

立石さん、練習出来るようになるまで何とかテニスは我慢して、でも、テニスへの情熱だけは懐で暖めて、また練習出来るようになったらビシビシコチしますから、それまでの辛抱ですよ！

湊 高志 さん

コメント: 遂に、11月大会でハードコア制覇、今飛ぶ鳥を落とす勢いの湊くん。

ホントに湊くんについては、色々な周りの人から上手くなった上手くなったと絶賛の嵐。特にあの、人を余り評論しない石飛さんまでもが湊くんは上手になったと言っておられたのには、何故か僕までもが嬉しくなってしまいました。

さて、湊くんはまだ若く、例えるならかつての全日本の秋山準のような存在なので、これからハードコアの屋台骨を支えるメインイベントに定着して行って貰いたい。これからは敢えて課題を挙げさせて貰って、更なる高みを目指すヒントにして貰えたらいいなと思います。

今のままのサーブでは、12月大会の対高倉戦10ゲーム目でやられたように、球威がなく手頃に跳ねるから打ち込まれ易く、短いので、そのまま余り時間も要らずネットのいいとこまで出られてボレーで決められてしまうので、サーブのドラスティックな改良が必要です。

ベースラインでずっと打ち合ってくれるプレーヤーなら余り影響ないですが、ある程度コントロールしながらアプローチショットが打てて、ドンドン前に出てくるプレーヤー(高倉のような)なら、少し動かされてのバックハンドスライスでのパッシングショットは超高度なテクなので、ボレーの網に引っかかるか、浮いてアウトする可能性が非常に高いです。よって、短くてもいいので、ボレーヤーの足元に落とせるバックハンドスピンドルを身につけておくこと。

以上、この2つをクリアすれば、ちょっと湊くんへの有効打が思いつかなくなる。については今はこすり過ぎているかなって印象なので気分転換にドフラットで打ってみると何か新しいものが見えてくるかなって思いま

す。僕が今湊くんのサーブの行き着く先をイメージしているのは田中さんのサーブですかね。

とにかく最強王者への道、是非極めて貰いたいものです。

—出場回数11回組—

植田 晃広 さん

コメント：12月大会、無念の「ノロウィルス疑惑」での欠場。惜しかったです。

僕も植田さんと12回完走したかったです。特にハードコア戦士達には実は余り知られていませんが、植田さんは今年4月から浜田に転勤されハードコアの日(もしくは前日)ははるばるこっちまで帰ってきて参加していただいているので、その価値は他の人と比べものにならないほどの重みがあるのです。

植田さんといえば、建部さんや浦瀬さんほか、植田さん苦手って方は多いですよね。今年はラケットをヨネックスのマックスパワーからFPプレステージMPに変えられ、その球筋も威力もホントにパワーアップされました。色々引き出しの多いプレーをされる植田さんにはかなり「良い」出会いではなかったかと思われます。ハードコアの日は大体、自分のプレーに納得がいかないらしく、険しい顔で自分を評価されている光景を見ますが、08シーズンはプレーでは上位T定着、そして僕とともに12回完走を目指しましょう！！